



時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

今回はお釈迦様が悟りを開かれてから初めてその真理を説かれた(初轉法輪)場所、インド四大仏跡の一つである『サルナート』のお話です。

ブツダガヤで悟りを開かれたお釈迦様がまずこのサルナートへ向かわれたのは、お釈迦様が6年間に及ぶ苦行を止めてしまわれた時、自分たちは苦行を続けようと離れていった5人の修行仲間(法を説く)初轉法輪(ためでした)。

現在のこの町は仏教をはじめヒンズー教・ジャイナ教の

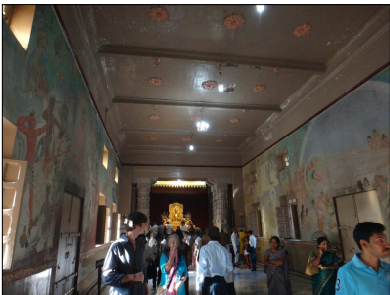


聖地でもあり、「聖者の住んでいた町」という意味であるリーシーパタンという旧名があったほどの場所です。またここから南へ約6キロ先には、ガンジス河の沐浴で有名なヒンドゥー教の一大聖地・

バラナシもあります。

そして仏典による当時のこの地名『鹿野園(ろくやおん)』を含めた現在のサルナートの遺跡群は、お釈迦成道の地であるブツダガヤに勝るとも劣らぬ規模のもので、特にお釈迦様が『四諦・八正道』を説かれた場所に建つ「ダメークストウパー」(写真上)は、その高さが43m・基壇の直径36mと威容を誇り、近くからはお釈迦様の仏舍利(お骨)も発見されています。

次に目を引くのは、その北側にある1931年(昭和6)に建てられたムーラガンダクティ寺院です。その内部には壁面全体にお釈迦様のご生涯を描いた野生司香雪(のうず



こうせつ)氏の壁画(昭和11年制作・写真右)があり、世界各国からの参拝者の目を和ませています。

またこれらの遺跡群に隣接する考古博物館には、このサルナートから19世紀に出土したお釈迦様の初轉法輪像が

安置されています。その印相は左手に『仏・法・僧』、そして右手は『中道・四諦・八正道』を表し、今回の巡礼で数々の仏像を拝見しましたが、私の中では最も崇高なお姿に思えました。

その他にもここから出土した多数の展示品があり、その一つ一つをご紹介した大規模な遺跡群からもこのサルナートという町からは、仏教教団が高らかに産声を上げ、今もなおその基本的理念・思想を発信し続けている場所であることを強く感じる事ができました。

#### ◆インド人の結婚・恋愛

インド人夫婦のほぼ85%はお見合い結婚で、日曜日の大手の新聞には、職業・年齢・

収入、そして宗教を記載したお見合い欄が必ずありました。しかし日本のように巷で男女のカップルを見かけることは皆無で、街中を歩く年頃の女性を見かけることもありません。『性』に対して厳格で良いようにも思えますが、男同士で手を繋いでいる光景をよく見かけましたので、なんとも複雑な心境でした……

